

a 学校教育目標	学びあい、思いあい、高めあいのできる児童の育成「三愛」	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命)自分を愛し、夢を語り、主体的に行動する児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像)地域から信頼され、自校に誇りがもてる学校
----------	-----------------------------	----------------------	--

評価計画				自己評価					改善方針		学校関係者評価			
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	9月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方針	l 評価			
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力の向上	確かな学力を身に付けた児童の育成	◎主体的・対話的な深い学びとなる授業づくりを通し、自ら考え学びあい、課題を解決する力を育成する。 ②生活科・総合的な学習の時間におけるプロジェクト型学習の推進	①算数科単元末テストにおいて、80点以上の児童の割合 ②効果的にICTを取り入れた授業づくり(校内研修を月1回以上設定) ③プロジェクト型学習の視点を取り入れた単元開発(学年1単元以上)	①80% ②90% ③100%	①73.5% ②100% ③100%	①78.1% ②100% ③100%	①97.6% ②111% ③100%	①B ②A ③A	①目標を達成できなかった。(78.1%) 9月に比べると向上はした。学力が定着していない児童への手立てや具体的な指導、または検証の共有が十分できなかった。授業改善のあり方を示し、取組を進める必要がある。 ②目標を達成することができた。(100%) 校内研修月1回以上実施。本校指導案において「ICTの効果的な活用」に加え「ICT活用のメリット」も記述することで効果を明確化。 ③目標を達成することができた。(100%) 二ブロックやプロジェクト型学習の研修会での学びを校内へ還元。全員参加の研修を計画的に実施。単元開発し、実施することもできた(一部コロナでできない内容もあり)。来年度の年間指導計画作成済。	①「問い」と単元のゴールを意識した授業改善。組織としての取組を明確化。「思考・判断・表現」の力を育成する具体的な手立て(思考させるための問いや表現の場の設定など)が必要。チャレンジタイムで明らかにした学年や学級の課題に応じて今後の対策を共有・実施→見直し。 ②ICTの活用を図ることができたので、今年度の成果をもとに、来年度、より効果的な活用を図っていく。「クロームブック推進活用プロジェクト」の活用。 ③作成した来年度の指導計画を各学年・各部署で見直し、次年度の担当者に引継げるよう計画。	○			・「主体的・対話的で深い学びとなる授業」について、児童自身が学習する教材に対して、その目標へどう立ち向かうかを学級全員で自覚する学習を進めてほしい。 ・特に児童相互の「対話的」活動の育成に期待しています。 ・児童が体得するまで、段階を追いながら、児童の力を育成していただきたいと願っている。 ・学力は「繰り返し」が必要。取組を引続きお願いしたい。 ・端末を自由に操作するには、毎日触れることが大切。また、膨大な情報量から必要なことを選択できる力もつきたい。
豊かな心の育成	潤いと落ち着きのある児童の育成	◎目標達成のため、自ら挑戦し、仲間とともに粘り強くやりぬく力を育成する ③「気持ちのよい学校」づくり ・学級・学年・児童会の目標設定 ・縦割り班掃除の振り返り	①学校行事・児童会行事において、目標達成のために手立てを設定し、頑張り認め場の設定(月1回以上) ②児童の登校率の割合 ③「あいさつ」「そうじ」の振り返りで肯定的評価をした児童・教師の割合	①90% ②96% ③90%	①100% ②98.3% ③97.2%	①100% ②97.3% ③93.0%	①111% ②101% ③103%	①A ②A ③A	①目標を達成することができた。(100%) 児童会本部役員が中心となって、目標を設定し、目標に応じた企画を実施。 ②目標を達成することができた。(97.3%) 家庭訪問や関係機関との連携。登校率だけでなく、不登校児童の登校意識も向上。 ③目標を達成することができた。(93%) 児童会が中心となつてのあいさつ運動。学校全体の挨拶の意識の向上。縦割り掃除も高学年を中心に計画・実施 児童:あいさつ(94.2%)掃除(97.1%) 教師:あいさつ(87.3%)掃除(93.3%)	①今後も目標が自分事となるように、各学級から出てきた課題から目標を設定。リモートを活用し、児童朝会で結果と振り返りの実施。 ②今後も一層の連携を図り、リモートでの授業参加やICTを活用した取組の充実。学年主任や生徒指導担当も担任と家庭訪問をする等実施し、組織的に対応。 ③高学年を中心に朝のあいさつ運動を実施。掃除は強化週間を計画。	○			・学力は端末機になれることも大切だが、辛抱強く読む、書くことも大切かと思う。本に親しみ、文書を書く機会も引き続きやってほしい。 ・目標値が達成できなかったとしても、それまでの試行錯誤の取組が大切だし、これからも懸命に語りかけてくれる、接してくれる大人に出会ってほしい。 ・この調子で学校行事にも取り組み、達成感を味わえるようにしてほしい。 ・自分も相手も気分がUPするあいさつをさせたい。
健やかな体の育成	生涯にわたり心身ともに健康で安全な活力ある生活を送るための基礎的実践力の育成	◎自分の健康に関心を持ち、健康課題を自ら解決していこうとする態度を育成する ②日常生活習慣指導の実施 ・手洗い・マスク着用の徹底	①体力テストにおいて、前回比で向上した児童の割合 ②週に3日以上外遊びをしている児童の割合 ③生活アンケートにおいて、肯定的評価をした児童の割合	①80% ②90% ③100%	①71.3% ②88.4% ③100%	①89.1% ②98.2% ③100%	① ② ③	①B ②B ③A	①6月に実施。後期は2月末までに実施予定。全国平均等と比較し、課題のある種目への取組。 ②目標を達成できた。(98%) 体育委員会が全員遊び(外遊び)の企画・運営 コロナの影響で計画していた取組が未実施。 ③目標を達成することができた。(100%) マスクの正しい着用。(95.3%)	①授業の中にドリル走を取り入れ、走力を中心に体力を向上。 ②週に1回以上、学級や学年で担任も参加した全員遊びを実施し、外遊びを奨励。 ③手洗い・消毒の取組は引き続き継続。マスクを正しく着用することの必要性やコロナウイルス感染症対策に向けた意識を向上。	○			・外遊びは大切である。コロナ過ではあるが、気をつけながら教職員も一緒に取り組むことで習慣化させたい。 ・コロナ禍の中、先生方も苦労が多いかと思う。子供たちが安全に学校生活が送れるように、手洗い、消毒、マスク、三密回避が習慣化されるように日々の声かけをよろしくお願ひしたい。
信頼される学校	保護者・地域とともに歩む学校の推進	◎コミュニティ・スクールを推進する ◎教職員が健康でやりがいをもって勤務できる環境づくり	①組織作りと課題・目標等の共有化(熟議) ②地域の力を活かした教育活動の推進 ③積極的な働き方改革への意識の向上 ・定時退校日の実施(毎週水曜日) ・教科担任制の導入 ③時間外勤務月平均45時間以下の教職員の割合	①90% ②100% ③80%	①50% ②100% ③91%	①75% ②100% ③91%	①83% ②100% ③113%	①B ②A ③A	①目標を達成できなかった。(75%) 学校通信や学年通信等で本校の様子や情報を積極的に公開。コミュニティスクール推進委員会の開催に課題 ②目標を達成することができた。(100%) 学校林に関わり、フォレストサポートを活用した取組が全学年、その他にも、コミセン、点訳ボランティア、手話サークルなどと取組ができた。 ③目標を達成することができた。(4~12月91%) 暮会を火曜日から月曜日に移動し放課後に学級事務の時間を確保。水曜日の下校時刻を早めた。成績処理週間の設置。見直しをもった成績処理。教科担任制の導入。	①本校の様子や情報を積極的に公開。コミュニティスクール推進委員会を月1回以上の開催。地域連絡協議会で中之町の課題発見・解決に向けての熟議を実施。 ②これまでの地域人材の活用を各年間計画等に位置付けるとともに、今後も新たな人材とつながるよう検討。 ③来年度も、職員一人一人の意識改革を行いながら、業務改善をさらに進める。仕事量の偏りがない各部署内で調整。	○			・学校、児童の日常的な姿や学校教育の目的、目的達成の手段等を外部の目に晒して、より教育内容が高まるよう意見を求めるという「評価システム」が機能していることを評価したいと思う。 ・使命感をもつことが教師としてのやりがいにつながる。子供にとって身近な存在として、これからは頑張ってもらいたい。 ・学校児童の中でも、いろいろな形で家庭環境の悪化が進んでいるのではないかと心配している。何かあれば適切な動きがとれるような日頃の備えをお願いしたい。 ・忙しい毎日だが、先生方には休みの日には家族につきあう等メリハリをつけてがんばってもらいたい。 ・児童の登下校の会話や様子から、学校生活が充実しているのがうかがえる。

本年度の重点目標については◎印で示す。

【j:自己評価 評価】

A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100
C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60

【l:学校関係者評価 評価】

イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。
ハ:分からない。